

チッソ
株主総会

力で潰した患者の訴え

チッソの本質暴露

患者 家族 無念さと新たな怒り

この階段のすそを見て聞かして取り戻せ——本係患者達の叫びもむなしく、二十六日開かれたチッソ第四十三回株主総会では、深い、自衛備陣を多にした会社ペースで、わずか十分で終わった。市民の力を合わせて企業責任の追及を、と患者・労働団体が再びチッソに訴えかけたが、数には敵えないチッソ側の「力」の前に、根柢の叫びは消された。患者たちは「入社し会社らしいチッソのやり口」とくやしがりながらも「またかいはあった」と多勢の勢の盛り上がりを感じていた。

府警も捜査の方針 ガードマンの暴行



会議前で患者を擁護するガードマン

会議内で「株主を騙る悪徳株主たち

屈強な警備陣

十時四十分、会場の大阪厚生年金会館入り口に前夜から出来た長い行列が動き始めた。真っ先に入場したのは、水俣病被害者・家族と、付き添いの熊本・由緒する金六十人が目にしたのは、広い大ホールに最前部を三列に埋めた自主警備陣の人が多かった。婦会隊、おれたちも団員」という石渡団員、さらに水俣からバス一台で呼び寄せたといわれるチッソ労組を引若くて顔が蒼白な、渡辺栄蔵さんが、この人がきき向かって「われわれはチッソの企業責任を認めさせるためにやってきました。あなた方もいつ水俣病になるかわからないのです」と呼びかけた。日比野三浦水俣病市民会頭会長も「チッソはこんな人を雇うお方があるのなら患者に補償金を払いなさい」と叫んだ。



開会直前、チッソに「企業責任を取れ」と呼びかける患者家族代表の渡辺栄蔵さん

鷹形部長の江頭社長が閉会を告げる
と、完全に会社のペース。舞台上
上がった総会場の指揮で、挙手、
拍手が繰り返され、騒然たるうち
に十三分はむなしく過ぎた。

静かな怒り

「妻子を会社のえらい人たちに
抱かせて、少しも情をくんで
おもうと思っていたのに、えらい
人たちは見向きもしなかった。く
やくてた。人殺し、人殺し、
と叫んだばかりでした。やっぱり
あの人たちは、人の命を何とも思
っていないのですわ。見苦しいわ
が子を連れて来たはなかつた

が、三日夜なべして寝間着や浴衣
衣装を作ったのに」一総会のおと
胎児性患者田中実子さん(この母
親アサラさん)は悔しげに話し
ていた。

こんど初めて総会に乗り込んだ
最年長の牛鹿直さん(もとは「昨年
はからだの調子が悪わしくなへ、
出席できなかつた。だから今度
は、と期待していた。しかし、会
場に入れたというだけで、何もで
きなかつたのは残念だ。胎児性患
者を江頭に掲げたかつた。家を
留守にするので子供がわりにかわ
いがっているメジロも人に譲って

きた。それにしても、チッソは暴
力団のようなガードマンを雇い、
水俣から第二組合を連れてきてい
たが、まさに人殺し会社、チッソ
らしいやり口だ。もちろん次の株
主総会には、からだのつづく限り
出る」と静かな口調にも怒りをこ
めて語った。

しかし、初めから会社の「力」
による強行を予想していたため、
さほどがっかりしたようすもな
く、水俣病裁判で罪人になってい
る西田栄一(薬業校)元水俣工場長
が決算報告したことを思い出し
て「裁判のときはおとなしくして
いるのに、きょうは元気がよかつ
た。六月の裁判で、ちめてち
る」という口も出て、口々にチ
ッソのやり方をのしる支援団体の
の学生たちとは対照的だった。

「株運動の今後

一方、日自ファミコ会長は「昨年

と同じことはできないと思ってい
た。結局チッソは暴力で私たちを
抑えた。患者さんたちに直接対決
の場を設けることはできなかつた
が、これによつてチッソの悪巧
な本質が余すところなく暴露され
た。それとともに全国の告発する
会の皆さんが水俣病にほんとうに
真剣に取り組んでいることが明瞭
されたと思ふ」と、総会参加の怒
噴を述べていた。

総会でのガードマンの暴行につ
いては、大阪府警でも傷害事件と
して捜査する方針を決めたが、
「遊園設備」に対する支援団体の
怒りは強く、一株株主運動の担
者である後藤孝典弁護士は「この
総会が無効か有効かという法律的
問題以前に、ガードマンによる
暴力行為を糾弾することが必要」
と怒っている。

しかし、当初から株主総会乗り
込みは無意味として積極的な取り
組みをしていなかった「熊本信託

する会」では、チッソが「暴力団
まがい」の特別防衛隊をほし
め、右翼を入れたことを非難しな
がらも、総会の結果については冷
静に受け止め、総会後の患者救済
基金でも「水俣病を告発する戦い
は株主総会だけでははない」ことを
強調していた。

残忍なやり方

「善海浄土」の作者石牟礼道子
さんの話、チッソの残忍なやり方

が自らのものにまみれたと思
います。あの人たちには、患者さん
をみてもあざ笑ひする心しかない
のでしょうか。今度はこの形に
なることを予想していました。患
者さんは、ずっと冷静で爾島が騒
乱状態の間も、位はいをしつかり
と手にもち、小さな声でご挨拶を
囁き続けるなど落ち着いていまし
た。告発運動を通じて私は患者さ
んの人間らしさに次めて打たれま

した。